



7NJパイオニア賞

第7回日本ジャンボリー特集号



終る 訓練の展示場



静岡県連副コミッショナー 三輪 悅爾

皆様もご承知の如く、今回は今迄のジャンボリーと違ったサブキャンプ方式で開幕された。

総長がおっしゃられておられるようにお祭り的な祭典でなく3つのちかいと12のおきての訓練的展示場であってほしいと述べられている通り、果してその成果が上った事だろうか。?

又総コミッショナーが、全国県コミッショナー会議で挨拶の中で述べられた、スカウトの原点に帰った新しいタイプの、ジャンボリーであってほしい。又日本ジャンボリーに、非行防止の言葉が出るのはおどろきだと聞いている。

私たち静岡県内の派遣隊長会議、第7野営区の本部員会議の再々度に亘る会議の中から、大橋県コミッショナーが以上の事をくどくも述べられていた。

—新しいタイプの新しいジャンボリー方式を……—

雨よこい、風よこい、我等スカウト。

或キャンプサイドの看板(ゲート)にでかでかとペンキで書かれていた。おそらくシニアースカウトの発想か、リーダーの人は知らぬが、雨でも風でも嵐でも、何でもこい、それに挑戦してやろうという気持の表れであったろう。

果せるかな、暴風雨の歓迎である。8月2日から3日にかけて暴風雨に見まわれた。全国から約2万6千、世界14ヶ国のスカウト 582名ときいている。

本県からボーイ30ヶ隊、シニアー12ヶ隊、奉仕隊シニアー2ヶ隊G H Q、S H Qに奉仕したリーダー含め約2,000余名の大半が暴風雨の洗礼を受ける・雨風をものともせずスカウトリーダー、大きなリックにポンチョをかぶり希望と躍動のテーマのもとに続々と集ってくる。ポンチョを通じてぬれねずみ、になった事だろう。大半のスカウト達は、雨中について設営完了。尊い体験であった。或一部のスカウトリーダー達は、G H Qの指示に従って止むなく指示された宿舎に避難したものでした。

我々の第7野営区本部員も濡れネズミとなり、それぞれ与えられた作業に徹したものでした。特に資設資材班の活躍はめざましかった事を付しておきます。

今思うと多少のハプニングはつきものの、初参加したスカウト達は、一生の想い出として一頁をこの暴風雨の中での設営が深く刻まれた事だろう。

開幕式は最高潮に、

昨日の暴風雨も開会式を迎える頃にはケロリと忘れるような開会式日和となる。

続々とアーナーに集る

ファンファーレ、バンド、掲揚隊がステージに進み、国旗がステージ中央を過ぎるころ、スカウトの希望と躍動そして限りない明日への前進を象徴する「友情の鐘」が、ドラムマーチとダブルで静かに鳴り始める。

参加スカウトは、1人残らずこの感動の1頁を心に深く刻んだ事だろう。私も7SCの本部員と小高い丘の上からこのドラ

マを見守り続けたのでした。

100人の合唱隊のハミングが1つの音の光となってアーナー全体を包む頃雷鳴10発が空高く鳴りひびくと、大火床に赤か赤かと点火され、寺尾副大会長の開会のあいさつが故、植村大会長をしのんで行われた。引続き桜内建設大臣、山本県知事の励ましの言葉を頂き乍ら今回のジャンボリーをどうしても成功させようと心に誓ったのも私1人ではあるまい。

友情交歓のまつり

開会式を終えてからは、非常にめまぐるしい日々であった。

5日の福田首相のおしのび視察、スカウト達は、ヘリコプターの飛びかうのを眺め何と想像しただろうか？

6日の大集会、皇太子ご一家を迎えて、第7野営区、特に静岡第8隊(滝島隊)に見えられた。ご昼食については、沢山のハプニングがあった。カレーのご昼食は良いとしても、最初スカウト達と一緒に玉ねぎを刻む事から始まる指示が、2転3転し振まわされた一コマでもあった。せまい道路のお出迎え、お見送りに整列したのもつい昨日のような気がしてならない。

大集会の栄えあるスカウト宣言は、地元御殿場7団の15才の少年であった。

強い風、横なぐりの雨、きびしい富士の歓迎と力強く宣言されたのが印象に残る。

又皇太子殿下のお言葉も

荒天のきびしい試練によって幕を開けた第7回日本ジャンボリーも、今日は良く晴れ渡り大集会の日にふさわしい日となりました。

富士山ろくの雄大な自然はきびしくも楽しい世界を皆さんに与えてくれました。

希望と躍動のテーマにふさわしく、実り多く皆さん的心に永く残るよう期待しますとお言葉を頂く。

雷雨と中止の閉会式

ハイライトでもある閉会式も8日は、雷と雨でしめくられた私たちのいる7野営区の本部前の道路は滝の如く流れる水、各所への落雷、雷、そのとどろきのダブルパンチは、スカウト達は、何と受止めたであろうか。

或リーダーが滝ヶ原のルーツを私に話された。……滝ヶ原と云ふ…。

閉会式の終了予定時刻に、大空に上った花火は「パーン」「パーン」と心ち良く鳴り響くと共に7色を残して消えてゆく。

各キャンプサイドにいるスカウト達は一せいに「ウオー」「ウオー」と歓声をあげたのだろう。こだまが私達の耳にとどろいた。何と素晴らしい瞬間だっただろうか？パイオニア章の夢はみんな取得出来ただろうか？

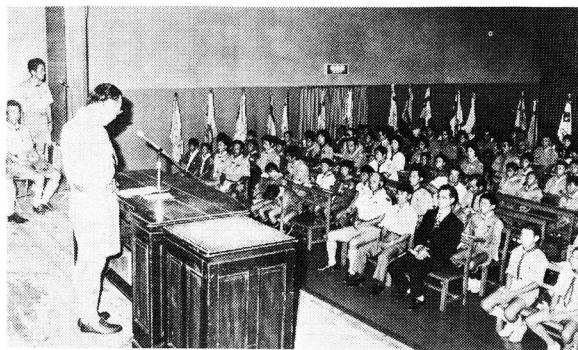
アーナーでは雨中について、それをお口自慢を友情交歓していたと聞く…。

希望と躍動の「テーマ」が明日へのスカウト達の心の糧となった事を確信し筆を置く。 (7SC野営副部長)

昭和53年度ボーイスカウト 浜松地区大会

昭和53年9月10日(日)午前9時~10時、浜松児童会館にて、来賓の各ライオンズクラブ会長、ロータリークラブ会長、篠原町婦人会長、等をお迎えし、地区役員、リーダー、スカウト代表等約300人が一同に会し簡素であるが厳肅に行なわれた。

内田地区委員長の挨拶に引き続き来賓祝辞、今年度の地区表彰、感謝状贈呈、及び善行章伝達が行なわれた。



地区大会によせて



浜松地区委員長 内田 時世

風雨で始り雨で終った第7回日本ジャンボリーも無事に盛大に終了いたしました事は何よりもうれしい事でございました。

浜松地区は昭和31年第1回日本ジャンボリーが軽井沢にて挙行された年に結成されました。本年が24年目になります。奇しくも私の関係している第4団の発団と同年でありまして、私自身才月の流れの早いことに驚いております。

皆様のお陰で当地区は県内に於て名実ともに実力ある優秀な地区として発展してまいりました。スカウト教育の面でも、スカウト奉仕の面に於ても自慢の出来る地区であると私はあえて申し上げたい。

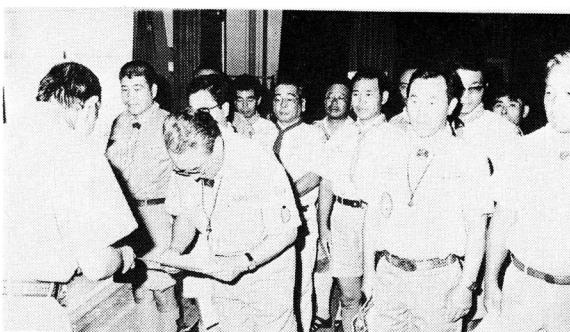
スカウト精神旺盛なる皆様に今更申し上げる事は何もございません。唯々、日頃のスカウト運動に対する皆様の熱意に感謝を申し上げたい気持で一杯でございます。

これから申し上げる事は、私自身に対する反省と、感じたままの事を申し上げるのであります、私自身その訓戒としてお聞きいただきたいと思います。

此の夏の高校野球での準決勝、決勝の劇的逆転試合を見ていて、心のよりどころといいますか、信仰のよりどころと申しますか、心にグット来るものを見せられたおもいがいたしました。

勿論夫々相対する2つの高校生両者とも、肉体的、精神的に共にたくましくきたえられてきたはずでございます。

その努力の結果の更にそれをのりこえるものとして、心のよりどころを持ったチームがあの奇跡とも言うべき勝利をかち得たのかなと、ブラウン管を通じて若者の表情の変化を見せられて、若者の心の中に何かがあると考えました。S・Sにこれを



求めるのは無理なことでしょうか。私は考えました。スカウティングの原点は何か。「神と国とに誠をつくす」とは何か。

スカウティングの「おきて」の実行は、道徳面からばかりではなく、深い信仰につながっているものだ。という考え方を今一度銘記したいとおもいます。

今回の7・N・Jに於ても、嵐の中での設営に、テントを守るために2時間余も支柱をささえていたというスカウトの話。嵐の中、設営資材がまにあわなくて、学校、公民館に退避したスカウト達が、「来たときよりも美しく、残すのは感謝のみ」という野営の基礎を守り、お借りした会場の責任者より、「さすがボーイスカウトだ」と讃美の言葉をいただいた事、心あたたまる色々の話を聞いて、よかったです。という心のやすらぎをおぼえたのは私一人だけではないとおもいます。

さて、各隊代表のスカウト諸君。今日はご苦労様でした。今日の集会は一年の行事の中で、一つのくぎりをつけるための式典です。今から、日頃諸君がお世話になっている、地域の方々、団委員、リーダーの方々に、長い間ご苦労様でした。これからもよろしくお願いしますと、感謝の心をこめてお礼を申し上げる式をします。

「有難うございます」という感謝の気持をいつまでも忘れないようにして下さい。そして、隊に帰えったら、各班毎に、各組毎に、君達自身が、何故スカウトになったのか、と今一度考えてみて下さい。「神と国とに誠をつくす」とは、どういうことか。「おきて」「やくそく」は誰れとしているのか。もう一度考えてほしいとおもいます。

特別暑く長かった夏も終り、健康の秋がやってきました。元気に力一杯スカウティングにとりくんで下さい。

昭和53年度BS浜松地区表彰者

[リーダー関係] (○内数字は団)

浜松①井ノ口智子、⑩鈴木雅美、⑩山下二郎、⑩柴田真次、⑫坪井悟、⑫小倉浜孫、⑮名倉惣一郎、⑯村松国弘、⑯袴田洋一、⑪玉木功一、引佐②神谷恭二、②内山恵介、浜松⑦板倉昭二、⑫小瀬慶次郎、可美①伊藤由二

[団委員関係] 浜松⑦和田卓人、⑩那須田進、⑩寺田春雄、⑩相曾久男、⑩河合久夫、⑫上田治正、⑫大橋威、⑩鈴木利夫、⑩鈴木利郎、⑪石井九一郎、細江①永田千一、①野末和彦、①横田順子、浜松⑧鈴木秋夫

[感謝状]

浜松ロータリークラブ殿	浜松ライオンズクラブ殿
浜松館山寺ライオンズクラブ殿	浜松葵ライオンズクラブ殿
浜松西ライオンズクラブ殿	浜松市篠原婦人会殿



第7回 日本ジャンボリー

昭和53年8月4日～8日 於・御殿場市中畠(滝ヶ原)

第7回日本 ジャンボリーに思う

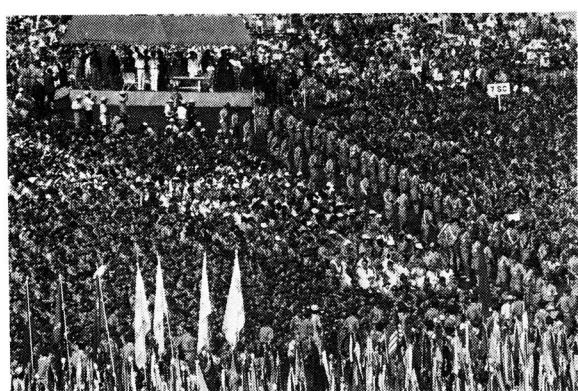
静岡第1隊隊長 玉木功一

朝6時浜松出発、雨それにもめげずに、スカウト全員集合。バスで7N J会場へ。会場は、風雨が強いなか設営ができるだろうか？全員雨にぬれながら設営開始した。まもなく、サブキャンプ本部より避難して下さいと連絡が来ました。私は明日はだいじょうぶと思い避難はいたしませんと言ってしまった。

その夜の雨と風の強いこと、私はしまったと思いましたが、夜各班のサイト及び天幕の中を見れば、スカウトは、すやすやと寝る顔を見て、あーこれで良かったんだ、リーダー判断はまちがっていなかったんだと思った。

次の朝、きれいな富士が見え、すがすがしい朝です。さあ、今日開会式が始まるぞー。開会式に始まりスカウト達は、自分達の選択したプロに挑戦していた。そのかけにリーダーが、かけの力になり、スカウト達が自由にプロに挑戦できパイオニア賞が取れたと思う。感謝の心を持つべきである。

思うま記す。
(浜松第21団)



7N Jに参加して

静岡第1隊タコ班 牧野充弘

ジャンボリー会場に来た当日は雨に降られ、設営にたいへんな時間がかかり、もうたいへんでたまらなかった。そこで思ったことは、もうこのまま雨がずっと降っているのではないか！もう先が思いやられると思った。それに7日間もこんなところにいるなんて……ということも思った。

2日目からだんだん天気もよくなってきたし、それにとなりのグアムの団ともしたくなってきた。だが、カマドの火をつけるのがいちばん苦しかった。

3日目からは、もう天気もほんとによくなってきて、富士山も雲がかからないときも見えるくらいになってきた。グアムの人たちとももう気がるに話せるようになってきたし（英語はほとんど話すことができないが）それから、グアム団の中の人の友達の中に“ソンブレーロ”という人がいるらしく、その人と

ぼくがているらしく、グアム団の人たちは、ぼくの名つまりアメリカンネイムとしてぼくの名前をソンブレーロとよぶようになった。

4日目には、住所を書いた紙をこうかんし、ぼくは作業ぼうを送り、相手はグアムから赤のベレーとネッカチーフを送って来てくれるようになんとか話がついた。

5日目もだいたい同じような形で1日が終わり、だがグアム団とのこうかんがその日でいちばんよかった時間だった。

さて6日目、夜には閉会式がある。グアム団は、朝からテッシュウをはじめ、ぼくらはパイオニア賞をとるため、まだこっている科目をやり、午後からは班そうびを整理をし、夕はんのしたくをしあげると雨が降りはじめ、6時ちかくにはカミナリもあり、とうとう閉会式も中止になり、結きょくテントの中でこれを書くことになった。

閉会式の時は、やはり晴れて参加したかった。

赤ベレーが早くこい！

ジャンボリーを体験して

静岡第1隊風班 天野秀敏

1週間という間、長い夏休みといえども3年生にとってはとても重要な時間だったはずだ。だから、初めはためらい、そしていく気もしなかったが、実際来て今振り返ると、とても有意義な日々だったと思う。フェスティバルといえども、隊長達のさし図をきびしく、うるさくも思えたが、それをぬきにして考えれば、各集会では福田首相、いやしくも象徴ぶり、若者の感心はうすいなれど一目見たくなる皇太子一家、その他大型ゲストを迎えて盛大にもり上がり、各パイオニア賞部門では国内外をとわず、スクラムをくんでアタックしたり、夜は浜松祭のねりをやる気満々の衆らが集まり歩き回り、隣のサイトのグアム隊との友情交歓、その他の商品トレードなどすばらしいものばかりだった。

しかし反面、ぼくらの班は最低班でいつもおこられてばかりいた。何も仕事をしないやつから、むつりんこ冗談しか言わんやつ、とにかくまとまりがなかった。

しかし、なかつた中にもまた原隊にない友情ができたと思うぼくの場合は、自分の班だけでなく全部の班のほとんどの人と



仲よくなれたり、気軽に話せるまでになった。となりのガムとの通訳をやらされて隊長と一緒に交渉を行った時、上がってとまどったが、あとはぼくの才能を生かしてペラペラ？

ぼく自身は外国スカウトとより他の日本人スカウトと仲よくなりたかったが、どうしても隣りなので、皆が近づき、その通訳に使われたので、それはそれでいいが、もう少し考えてもいいものだったと思う。これは日本ジャンボリーなんだから。

最初と最後の大雨、ケンカもあったし、コーク飲み挑戦、その他いろいろ思いはつきるが、とにかくこのジャンボリーは非常にすばらしいものだったと思う。

第7回日本ジャンボリーに参加して

静岡第1隊タコ班 石井 一

ぼくは、このジャンボリーは、苦しいことと、楽しいことがごちゃまぜになった、変なキャンプだった。苦しいということは、3日、4日と雨が降り、ぐちよぐちよになっていやになつたことだ。

雨は、あらしのように吹きあれ、テントに砂をたたきつけ、これで1週間もつか心配だった。たのしいことは、パイオニア賞のことだ。ぼくは、アドベンチャートレインが一番だと思う。ジャンボリーマラソンもよかった。アドベンチャートレインは、フィールドアスレチックをやるだけなので十分あそべた。

最後になったけど、ぼくたちは、ガムの人たちと仲よくなり、英語はあまり話せなかったが、心が通じあえるということがしみじみかんじた。たくさんのものをプレゼントしてもらいや、又、交換した。今、考えてみれば、もっとここにいたいような気がする。

7N.Jに参加して

静岡第2隊(浜松第7団)隊長 永田 達児

開会式の前日、3日から4日にかけ会場周辺は台風8号の影響で強い風雨に見舞われ、風雨の中をスカウトたちは班長を中心に全員がびしょぬれになりながら一丸となって設営にあたつた。全員元気である。



午後6時、花火の合図とともにまず鼓笛隊が入場、そして中央音楽隊の演奏する「旧友」などに合わせて2万6千人のスカウトが入場行進。ファンファーレの中、参加国旗掲揚、タイムツが点火されると開会宣言。

翌5日から友情ゲームなど選択プロで催しものが各会場で行

われたが、スカウト達が真剣にプログラムに挑戦し、多くの人々と接し楽しく過ごし、広く体験を重ねたことで、当初の不安も消え雰囲気がもりあがり、参加スカウトたちの表情が生き生きとして、友情の交歓があちこちに展開された。

参加した者がそれぞれの隊に、この体験を持ちかえって、その隊のスカウティングの向上に役立てるのはこれからです。

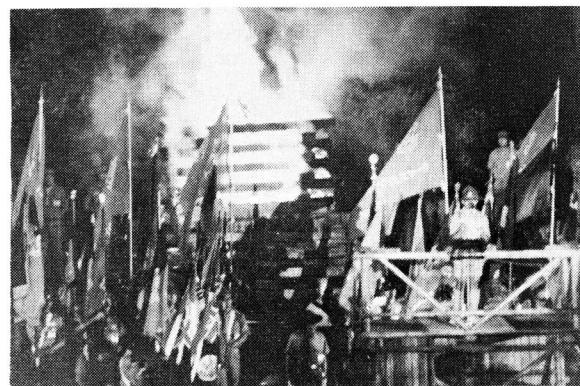
1名の事故者もなく、全員そろって帰隊でき、その任務を果すことができたことは、参加者の自覚とともに各方面のご援助ご協力と神の加護のあったことを深く感謝しております。

7N.Jに参加して

静岡第2隊(浜松第4団 ボーイ隊)梅原芳郎

8月3日、御殿場のジャンボリー会場へ向けて出発した。まだ体験したこともない一週間のキャンプ生活ということで少しばかり不安もあったが、四年一度の日本ジャンボリーに参加できるのだという誇らしい気持ちで一杯だった。バスの中で歌ったり、ゲームをしているうちに緊張もいつの間にかほぐれていった。

会場に着いても雨はやまなかった。やむどころかどんどんひどくなり風もしてきた。



これでテントが立つか心配だった。午後になって設営を始めたが、強風にあおられてなかなか困難である。その上、雨にぬれて体力を消耗してしまったのか、あまり力が出ないような気がした。

ドロドロになりながら必死でテントを立てている、みんなの顔は真剣そのものだった。こんな悪条件での設営は今までに体験したことがなかった。だからこそ思い出に残っている。また自分のためにもなったと思う。

8月4日、雨も上がり、テントを3回ぐらい立てたりこわしたりしながら設営をやりなおした。この日の人々の表情は前日のものより少し余裕が見られた。そして夕方までかかって最高の静用第2隊のサイトができ上ったのである。

この日は夜から開会式があった。友達の話によるとみんな感激していたようだが、私は隊旗群の中で4団の隊旗を持っていたため、なんにも見ることができなかつた。残念である。

8月5日、朝からP賞科目的獲得がはじまった。P賞の中で一番思い出すのがブラザーフットハイクである。

これはバスで富士の2合目まで行き、そこから双子山という山へ登るわけだが、はじめの説明では距離はそんなにないと言っていたが、いざ登ってみると距離が2倍にも3倍にも感じら

れた。でも景色はよく、自然がいきづいているようだった。そして、登っているうちにガスが立ちこめ、視界が悪くなることがありますおもしろかった。とにかく疲れた。

それからその日は、愛知3隊と交歓会をした。営火の回りで歌ったりゲームをしながら楽しい時をすごした。この交歓会でまた友達を作り、名刺の交換もした。

8月6日、この日はジャンボリー大集会があったが、隊旗持ちで参加できなかった。この夜は、熊本の火の国隊と、7日は北海道の人達と交歓会を開いた。交歓会を開いたびに、ますますスカウトの友情が深まるのがわかった。

8月8日、最終日の閉会式は雨で中止になったものの、隊でドンチャンさわぎをしてジャンボリーの最後を楽しんだ。

このように一週間のキャンプ生活を無事に終え、私も少し成長したんだなと思ううれしい。



苦しみに耐えて

静岡第2隊(浜松第7団 ボーイ隊) 和田 義人

8月3日～9日までは、第7回日本ジャンボリーだった。3日の日は、出発時と同じ位の時刻に雨が降ってきた。ぼくは、初日目からついていないなあと思った。

バスの中での時間は「あっ」という間に過ぎてしまった。降車の時、会場にものすごい雨が降ってきたのでかけこむように自分のサイトに行った。午後自分らのテントを立てようとしたが何度も強風に会い、たおされたか知れなかった。そんな中で、ぼくは、自分で手を休めていいよかなあと考えていたのだった。そんなぼくを激励してくれたのは、みんなの暖い声援だった。

今思えばその声援がなかったらダメなおもしろくないジャンボリーになったのではないかとつくづく感じた。

2日のことだった。朝から夕方までのこととしては印象的なことはなかった。しかし、開会式の時だった。ぼくは、国旗持ちという名誉な役だった。

会場に着いても何度も移動したため、皆色と小言をつぶやいていた。そんな人達も出番が近くになると小言一言もいわない位まじめになっていた。ぼくも回りの人を見習って制服をきちんと整えたりした。そんなところにも偉さがあるもんだなと思った。

3目に入った。3日目からP賞科目が始まった。ぼくは、初め無線に行った。そこで交信している人はさすがにベテランのようだった。ぼくも免許証だけは持っているが、ただ持っているだけではいけないと思った。免許とはそもそもそのことに

使わなければ意味がない。そのことを知つてながら使わないぼくは何て奴だとつくづく感じさせられた。

午後はベースウォークの場所を捜したが結局やることができなかつた。そんな事から自分の欠点を知らされた。

晩の営火は愛知第3隊とやつた。その時友達になった柴田君は、9日の晩にお札の電話までくれた。

4日目は、P賞の科目の一つの宗教というものがあった。ぼくはその時、お経を目をとじてずっと聞いていた。いつもお経は、葬式の時か、盆の時しか聞いたことがなかつた。その時のぼくは、お経を気持ち悪く感じていたが、この日のぼくは逆に心のいろいろが消えてしまうように感じた。そして夕食の時、熊本の火の国隊を招待して交歓会をやつた。ぼくは、熊本の人の方言に耳を寄せて聞いていたが、彼らは共通語(標準語)を使わず、方言だけで通していた。その方言の良さを彼らは、ぼくらに教えてくれるようだつた。

5日目、ぼくは富士スウェーブというP賞科目に出発した。そのおもしろさといったら言葉では表現できない位だつた。富士五湖中三つを巡り、五合目まで登つた。

その日の晩は、北海道の隊とやつたがそんな時にもその日一日中のことが忘れられなかつた。

6日目のP賞最終日にぼくは、苦しみながらも獲得した。その時ぼくは、よく耐えられたなあと自分ながら感心した。とうとう閉会式はできなかつたがP賞の獲得がとてもうれしかつたためか、何とも感じなかつた。今思えば記念すべき日に閉会式をやらなかつたのは心残りだ。

7日目、朝から撤収だつた。あきれ返つてしまふほど長い時間続けられた。しかしその時には、もう苦しみは何にもなかつた。自分も進歩したのだ。苦しみに耐えられるようになったのだ。そう思った時、今までの自分とは違うことをはつきり知つた。

第7回日本ジャンボリーに参加して

静岡第2隊(浜松第11団 ボーイ隊) 水谷 全宏

今回のジャンボリー参加が決まって、静岡2隊の結団式が行なわれ、また、各人の班が決つた。そして、ぼくは、コンドル班の班長になった。各団からの選抜された人たちが集まり、班を作り、その中の班長ということで多少班長としての責任をはたすということに自信がなかつた。

隊が結成され、何回かの隊集会を行なううちに、班としてのまとまり、隊としてのまとまりがでてきたと思う。

8月3日、朝6時出発、待ちに待つた第7回日本ジャンボリー参加のため、富士の裾野、御殿場のジャンボリー会場へ向つた。

会場の天候は、暴風雨、雨がはだに当たるといつぐらい大つぶの雨と強い風が吹いていた。その悪天候の中で設営が始まつた。

他のサイトを見てみると、テントが思うように立たない。これもある暴風雨のせいだ。そして、今度は自分たちの番だ。テントは班で2ハリ、4人で1つのテントを使う。当然設営も4人で1つを立てるようにした。

しかし、暴風のため1本の主柱を1人で持つことはできない。もし手をゆるめて主柱への力を減らすとたちまちテントはと

ばされる。結局1つずつ8人で立てるようにした。その日の夜も風が強くテントがいつ飛ばされてもいいようにカッパを着て寝ましたが、心配でその夜はほとんど寝れなかった。

8月4日、午前中に雨は上がり、雄大な富士がその姿を現した。しかし、午後からまた雨が降り出した。雨で心配された開会式も雨が上がり、無事に開会式が行なわれた。開会式の時、ぼくは隊旗を持って行進した。そのために開会式が見れなかつたのはとても残念だった。

8月5日、今日からP賞の選択プログラムがはじまり、アマチュア無線では神奈川県のハムとQSOをし、ペースウォークでは東京都の人とチームを組んで参加して、スキルオラマは歌を唄い全部で3つのチェックを済ませた。

8月6日、今日はP賞の宗教行事と公共奉仕に参加して2つのチェックを済ませ、昨日のと合わせて5個あと2つでP賞がもらえる。

また、今日は全体行事のジャンボリー大集会が行なわれた。BS、SS、26,000人が集まり七夕にちなんだいろいろな出しおもの、歌、おどりなどおまつり気分十分だった。



8月7日、今日もP賞へのちょうせんあと2個、午前中にSCトレイルとディスカッションのチェックが済み、隊長の所へ参加手帳を出した。隊の中で第2位の早さだった。

8月8日、今日はジャンボリーの最終日、午前中に1~9までのサブキャンプ1つ1つを訪問し、友情交歓を行ない、北は北海道、南は九州まで友だちをたくさんつくった。夕方から雨が降り出し、閉会式は中止となった。

8月9日、撤営の時は雨も降らずにスムーズに行なった。そして、午後2時にジャンボリー会場を後にして浜松へと帰ってきた。

このジャンボリーで知り合った友だちはもう二度と会えないだろう。でも、友情は一生消えないと思う。もう会えないかもしれない。けれども、心と心は何かでつながれている。

第7回日本ジャンボリーに参加して

静岡第3隊隊長(浜松10団) 山下二郎

静岡第3隊は南部ブロックの浜松10団、16団、18団、23団、可美1団の5ヶ団から40名の隊編成です。副長に18団の伊熊有祐さんと10団鈴木雅美さん、副長補には23団の辻村竹一さんと16団矢部正則さんのリーダーでした。

今回のジャンボリーでは「サブキャンプシステム」が取り入れられ、運営は各サブキャンプが主体となって行なわれる。私たちの隊第1サブキャンプで北海道、東北地区の担当で運営しま

した。スカウト達の目的であるパイオニア賞への挑戦も毎日参加種目で苦労したかいがあり、私の隊は全員パイオニア賞がとれました。

スカウト達も健康には注意し、ケガ、病気がなく楽しい思いでの残る第7回日本ジャンボリーでした。

第7回日本ジャンボリーに参加して

静岡3隊(浜松第18団ボーイ隊) 池谷敦夫

ぼくは、日本ジャンボリーって、6泊7日もキャンプするのか、いつものキャンプは2泊3日なので、その3倍だなと思いながら日本ジャンボリーに行きました。だけど、参加してみると、一週間がほんとに短かく感じられました。ぼくは、その一週間で、いろいろな事を学び大へんよかったです。

ぼくが、一番心に残ったことは、暴風雨の中の設営です。ぼくは、ボーイスカウトに入って以来、キャンプに行って一度も雨に降られた事がなかったからです。

8月3日に野営地に着いた時に、横殴りの雨と強い風でした。服もズボンもびしょぬれになりました。それでも時々少し晴れ間があるので、その間にいくらかテントが張れました。でもついに食卓フライは張れませんでした。それにかまどもできなかったので、3日の夕飯は本部で全部作ってくれました。その夜もすごい雨で、テントに当たる雨の音がものすごく、なかなかねむれませんでした。でも、次の日は晴れてくれたのでほっとしました。

そして、ぼくは、日本ジャンボリーに行って、友情ゲームでたくさんの全国のスカウトと友だちになったり、隣のキャンプのガムのスカウトたちと、仲よくなったりしてほんとうに楽しくよかったです。

また、4年後に開かれる第8回日本ジャンボリーにはぜひ参加したいと思います。



日本ジャンボリーに行って

静岡3隊(可美第1団ボーイ隊) 鈴木利幸

ぼくは、第7回日本ジャンボリーへ参加した。

3日、ぼくたちはバスに乗り、一路ジャンボリー会場である滝ヶ原にむかった。バスの中では荷物にもまれながら、開催地へむかっていった。

現地についてバスから降りたら、立っているのもつらくなるような風雨だった。

5日からいろいろな行事がはじまった。ぼくが一番思い出に

のこっているのが、友情ゲームで、103分かかってようやく出来あがった。その間いろいろな人と組んだり、うらぎられたりした。だが103分で8人そろった。そして組んだ人もまちまちで、北海道や神奈川や大阪、鹿児島など日本各地からよりあった。ぼくは本当に日本各地を歩きまわったかんじがした。いつかきかいがあったら、またこのようなゲームをやりたい。

6日にはジャンボリー大集会がひらかれて、ぼくは、七夕祭りに参加して小ささをもった。そのとき、皇太子様などいるロイヤルボックスにむかって走っていったので、いろいろと顔をうかがえた。

7日はサブキャンプごとに自由交歓をやった。第一サブキャンプは、縁日大会をやった。それは、いろいろやるにしても券がいるけれど、ぼくには一枚もまわってこなかったので、あまりおもしろくなかった。

8日は、パイオニア賞がとれるようになっていたので、なにもやることがなかった。

ぼくはジャンボリー全体をとおして思うことは、なにがなんでも大規模だということで、日本全国から2万6千人の人がきたことである。それで、選択プログラムでもいろいろこった物があるし、県大会や地区大会とはちがい、お金をかけてあると思う。やはり全体をまとめていれば、おもしろくて、多数の思い出がのこったとおもう。それに全国的にも友達もできた。だから、またいつか、ジャンボリーに参加したいと思う。

第7回日本ジャンボリーに参加して

静岡3隊(浜松18団ボーイ隊) 鈴木 敏雄

ぼくは、7NJをとても楽しみにしていた。というのは、ぼくらの今までの活動(キャンプ)は浜松の身近に住んでいる仲間とやってきた。でも今度のは日本全国から来る。それに、話によると外人サンも来るそうだ。しかし、今回のジャンボリーは、6泊7日である。班訓の3泊4日の倍である。ぼくは、どっちかというと体が強いほうではないので疲労が重なったらいいへんだと思っていた。

最初の日は雨。バスに乗っていて、はやくやんでくれと思っていた。でも、降りるとまた激しく降ってきた。今度は強い風もいっしょだ。まるでぼくたちが来たのをいかっているように

その強い風をともなった雨は、やんだり、急に降ってきたりしたが、それでも設営は行なわれ、なんとか立てることができた。夜になっても雨はいっこうにやまず、ぼくらのテントは軽く、構造が簡単なので、とんでもいきそうで恐かった。

次の日の天気はまあまあだった。その日も設営を続けた。昼

ごろだったと思ったが、グアムのスカウトがやってきた。あとでチェンジをやってこようかなと思っていたところへ、もういつてきた、という人がいた。まあそんなことはどうでもよかった。でも、開会式が雨の中でやるのは、たいへんだと思った。なんとか雨も上がって開会式も成功に終わった。

あすからは、パイオニアである。

翌日、雨も完全にやんでいる。パイオニアは、それから4日間かけてとってきたのだが、あとから考えてみると、以外と簡単にとれた。

この第7回日本ジャンボリーで一番印象に残ったのは、外人スカウトとの交歓である。物も交換できだし、夏休みが終わるまでには手紙も出したい。

こんなことをして1週間という時間がほんの少しの時間に感じられるほど、はやくすぎてしまった。

まあ、水道が出なくて苦労もしたが、今までの野営で一番楽しかったし、いい体験にもなった。これからもハリキッていこう。

7NJを終えて

静岡4隊隊長(浜松第24団) 市川 茂明

富士山に見守られた大自然の中で「希望と躍進」のテーマのもとに、隊員達は目をらんらんと輝かせ『悪天候との戦い』、『パイオニア賞の獲得』、そして『友情を求めての交歓』、と大活躍する姿を目のあたりに見て、強い感銘をうけました。たしかに洗練された企画、運営のもとでの開会式、大集会は参加した者にとっては一生の想い出として残るでしょう。しかし、初参加の私の得たものは、スカウト達一人一人が真剣に、かつ懸命に活動する姿の美しさでした。そこに、『スカウト精神』の基本を見い出した気がします。このような機会を与えられたことに深く感謝しているこのごろです。

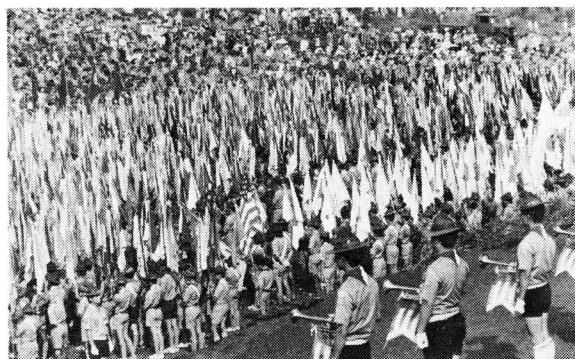
最後になりましたが、物心共に惜しみないご協力をいただきました皆々様に、あつく御礼申し上げます。



7NJに参加して

静岡第4隊(浜松第24団ボーイ隊) 細井 治虫

希望と躍動の第7回日本ジャンボリーも無事おえて、今、振り返ってみると、参加が決ったときは、7NJとはなんだろう、何をするのだろう、代表なんだからこんなこともしてみたいなどと、不安と希望で一杯でした。そして、あの暴風雨の中での設営、嘘のように晴れ上った開会式、目のあたりに見た和やかな皇太子一家の姿、閉会式を中止にさせた雷雨、まるで天候に左右させられた大会でした。大変難しいと思っていた最大の課



題のパイオニア賞の獲得、隊長よりのメダルの授与の時の感激が忘れられません。また外国スカウトとの交歓、外人との対話は初めてなので、身振り手振り、日本語混りの外国语を使いながらも、数多くのスカウトと交流したことは、よき思い出となりました。真黒の火山灰やくつが虫を注意しながら生活した一週間が懐しいです。本当に参加してよかった。次のジャンボリーへも参加したいです。

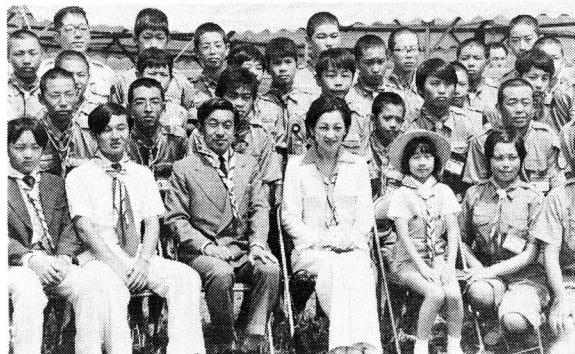
7N Jに参加して

S S 静岡第2隊隊長(浜松第14団) 斎藤房太郎

バスの戸を開けると、横なぐりの雨が吹き込んできた。荷物を背負って立った。7N J会場は、荒れて、かすんでびしょぬれだった。それから7日間、運搬、設営、配給と次々と作業が重なり、予定の変更も度々行なわれた。シニアとして初参加だけに、移動キャンプも奉仕活動もプロ消化に追われて夢中で終わった。

ジャンボリー大集会は盛大で華やかに見学したが、頭の中は紛失した竹材の不足をどう補うか、薪の不足は、とあしたのことを心配した。しかし隊員たちは自主的に取り組み、3ヶ月も前からの訓練の成果を發揮してくれた。

最終日の晩、本部に呼び出された。パイオニア賞の授領であった。暗くてザザッとテントに吹きつける雨をよけて、野営長からズシリと重いパイオニア賞を受け取った。隊員たちの苦労の結晶がこの手の中にあると思うと、思わずぎりしめ、一瞬緊張して、栄誉のしるしをうけた。

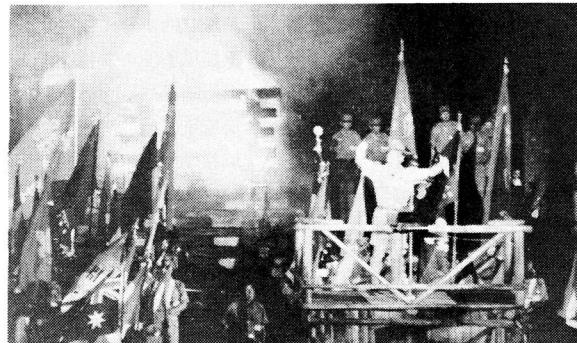


第7回日本ジャンボリーを振り返って

S S 静岡第3隊(浜松第18団)隊長 福世正志

私は、7N J編成隊のシニア隊長としての役務に従事してきました。今、振り返って見れば、県の隊長会から始まり、事前訓練(キャンプ・隊集会)も数多く機会を持ち、この大会に備えた。準備万端整い、いざ本番となると台風の影響で初日から悪条件での活動である。非常に備えての非難訓練を行い、開会式が中止となる。出足で先行不安をいたいたジャンボリーである。そうした矢先、目的の一つであるパイオニア章の申し込みが出ていないと云う事で、早速G H Qの行事係に行き、確認に当った。消灯の頃から深夜2時頃までかかってやっと了解がとれ、一安心。二日目より行事も順調に消化され、中日には皇太子一家がお見えになるなど大会ムードも一段と盛りあがり、その忙がしい中、時間を見つけてジャンボリー用の大凧も富士山に負けまいと大空に舞いあがり益々意気込みを感じた次第で

ある。又、私達のサイトは竹5隊と云う事も有り、孟宗竹を使い隊名を表わしたり、竹を利用したのれん作りも行なうなどして隊のPRにも余念がない。200米ばかり北側の道路は、自衛隊の戦車が毎日往来していて勇壮な感じであった。終日に近くにしたがい、スカウト達のパイオニア賞も完了し、立派なメダルを手にした。閉会式を控え、空模様も悪くなり、午後より雨が降り出し、開会式と同様、激しい雨の為、閉会式まで中止となる始末であった。原点に帰り、スカウト活動と云うキャッチフレーズも終了してみれば、多くの反省点をみやげに滝ヶ原の土をあとにした。日本ジャンボリーを控え、早くから準備に忙がしかった関係者も無事終了し安堵感が否めない今日この頃である。



第7回日本ジャンボリーに参加して

S S 静岡第3隊 佐野治

広い富士のすそ野におよそ2万6千人のスカウトが希望と躍進を胸に集い、ここに第7回日本ジャンボリーの幕が切っておとされた。

我々は、県連派遣隊の一人として、又浜松西部地区、そして原隊の代表のスカウトとして望み、8月3日、シニヤスカウトは福世隊長を頭に、浜松を早朝6時に出発しました。あいにくこの日は台風八号の影響で富士山麓は暴風雨にみまわれ前途多難を思わせる初日となりました。しかし日増しに天候は回復に向かい3日後には感動的な赤富士を背に期待あふれるジャンボリー活動が始まりました。この活動の中心は何と言ってもパイオニア賞獲得の夢です。この賞の目的というのは、名誉と信頼の向上、世界スカウト友情の増進、又自然の理解と自然への冒険などの意欲を奨励する意味で数多くの楽しく、又厳格な行事への積極的参加によってスカウトに与えられるものです。このパイオニア賞をS S 竹5隊のスカウト全員が一人ももれなく獲得できたことは何よりも換えがたい喜びであった。竹5隊スカウトのパイオニア賞は石川副長さんの協力がこの賞獲得の主因だと思い感謝します。

僕自身、自然探研、国際友情で外国スカウトと記念交換や話ができるなどなど脳裏から離れられないこととなりました。

全世界の友情の集いだと感じたジャンボリー、どの人の目に美しく映った赤富士、暴風雨の中の設営、重かった水汲み、力を合せて作った夕食、浜松のシンボル“たこ”などなど、心中に焼きついた思い出が再びあの感動をよみがえらさせてくれます。

大自然の思うがままに過ごした7日間。夢と希望を一心に集めた第7回日本ジャンボリーはこうして霧の中に響きわたる花火と共に一大祭典の幕を華やかに閉じたのでありました。

浜松中小地区運動会 盛大に開催

9月17日（日）、快晴、自衛隊南基地グランドを特別に借用し、各団の熱心な競技と応援合戦をくりひろげ、中央小地区スカウトの意氣大いに高揚された。

各種目とも各団対抗で次のような成績をおさめ、前年に引続き浜松第21団が優勝した。しかし得点数では浜松第14団と同点で、何れを優勝にするか頭を痛めたが1等の数の多い21団と決定した。

競技成績

つなひき	カブの部 優勝	浜松1団カブ隊
〃	ボーイの部優勝	浜松21団ボーイ隊
部 門 別	カブの部 優勝	浜松第1団カブ隊
〃	ボーイの部優勝	浜松第6団ボーイ隊
リ レ ー	1等 優勝	浜松第6団
	2等 準優勝	浜松第21団
総 合	優勝	浜松第21団
	準優勝	浜松第14団



故齊木誠二氏をしのんで

浜松第1団团委員長 吉沢 正道

浜松地区指導者養成委員長であり又浜松第1団の副団委員長の齊木誠二氏は、聖隸病院に入院加療中のところ、治療の甲斐なく、6月7日肝臓癌のため、逝去されました。享年53才であります。

齊木さんは、昭和40年、長男敬三君が浜松第1団に入団するとともに団委員として、団のために御尽力を下され更に昭和45年からは、副団委員長として豊富な人生経験を生かした団の運営にあたり誰もが心服し、敬愛するものがありました。

ここに謹んで故人のご冥福をお祈り致します。

別 れ

浜松第1団副団委員長 岡本一郎

出あいがあれば別れがある
これが人生の宿命であり
人間だれしも一度は越えなければならない生死の理である
この理の前にはどうする事も出来ない自分達である事を知りつ

つもこの理の前に悟り済ませるものではない。

泣きたい時には泣きたいだけ泣き

力尽きて何かにすがりたくなるまで悲しみ、悲しみ合う、これが人間であり人生の別れである。

齊木さん思えば貴下との最初の出会いは多分八年前渋川で地区的合同野営があったその時のように思う。それ以来共にボーイの道を歩きながら、ある時は過ぎし日を語り合い、ある時は将来を語り、時には論じあったりして、さまざまな想い出を抱いて楽しみと悲しみの想錯の中で今日まで歩きづけて来たのだった。その間、病気1つした事のない貴下が突然病に倒れ悲運にも遂に帰らぬ人となってしまった。私は貴下の突然の訃報に接した時は呆然として信じる事が出来なかった。だけど貴下は本当に亡くなっていた。

あまりにも呆気ない別れに私は暗然として人生の無情を感じたのである。思えば貴下が亡くなる二日前、病院の廊下で私の姿をみるやいなや、俺はもう駄目だよと言って、肩からくずれ落ちるようにして近くにあった椅子に腰を落してしまった。あの一言が貴下とのこの世の最後の別れになってしまったのである。

貴下はきわめて誠実で友情に厚く長年にわたってここに残された功績は今、私達の前に大きく浮かび上ってきます。そして貴下があの世へいかれても、貴下との数々の想い出は長く私達の心の中に生きづける事と思う。

私も所詮一度はこの世と別れをしなければならない。その時は亦お目にかかる事と思う、そしたら風通しのいい縁側で風鈴の音をききながら、枝豆でもつまみながらビールで乾杯とでもいきましょう。

だけど私は直ぐにはいけない。天寿を完とうするまでにやって置かなければならぬ仕事が山積して居るから、今はまだ貴下とのありし日の想い出を、偲び、心から御冥福をお祈りして居ります。

齊木さんをしのんで

浜松1団B S隊長 河原崎 敏

1団の父齊木さんはついに他界しました。氏は1団にとって、またわれわれスカウト仲間にとて、かえがたきよき先輩であった。

私が氏を知ったのは今から8年前、長男がスカウトになったときである。それ以来、私は氏とスカウト活動を共にしてきたあるときは野営に、あるときは研修に、またあるときは団会議にと、いつも氏のいないときはなかった。

また氏のスカウト活動は地味であったが、その活動の重みは格別であった。

私たちのスカウト活動に困難や迷いを生ずると滋愛の手をさしのべてくれるのはいつも氏であった。

また、氏は私生活でも潔べきであるとともに、趣味も広く、職場にあって多くの社員から信望され、その手腕が大いに期待されていたとき、かえすがえすも残念でならない。

私たちは1団名誉にかけても、氏が生前にかけたスカウト活動における労に報いるため、日々の善行を積重ね努力して行きたい。

デンマザー紹介

浜松第1団のデンマザー

C S隊長 井ノ口智子

浜松1団のDMをご紹介致します。我が1団のDM達は、理想的DMぞろい。それに加えて、今までにない、チームワークの良さで頑張っておられます。スカウト達も自分の組のDMが一番すばらしいと感じていて、喜ばしく思っております。

- 1組の横田弘子さん。やさしさを全身にたたえ、いつもニコニコの感じ。でもひとたび行動に移ると、軌道力にものをいわせ、たのもしいDMに変身。幼稚園児の子連れDMです。
- 2組の神宮ヒロ子さん。目がねの奥の目が、やさしかったり、こわかったり、曲った事が大きい。一本気の気持のよいお母さん。特技は「指圧」いつもリーダー達の疲れをとって下さる。
- 3組の毛塚敏恵さん。体は少し小柄ですが、アイディアと行動力は抜群で、スケールの大きさを感じさせる。明るくて、子供好き。このDMさんも子連れDMで子供の予備軍がハッスルしています。



後列左から 毛塚、神宮、服部
前列左から 米山、横田、鈴木

- 4組の鈴木幸子さん。二年連続ベテランDMです。めんどうみがいい上に、頼まれば「いや」と言った事のない、頼れる目がねの奥の目がかわいいお母さん。
- 5組の服部てる子さん。名前のように、いつも太陽のごとく、コロコロと、よく笑いころげる、楽しいお母さん。ゲーム等はスカウトよりも力が入り、頑張屋のDMさんです。
- 6組の米山之子さん。物静かで、やさしく、きちょうめんなお母さん。それでいて、明るいユーモラスなDMさんです。子供の評によると「気がちょっと弱い」とか。これが人気のひけつかな。

一組のデンマザー

浜松1団カブ隊1組 野村俊和

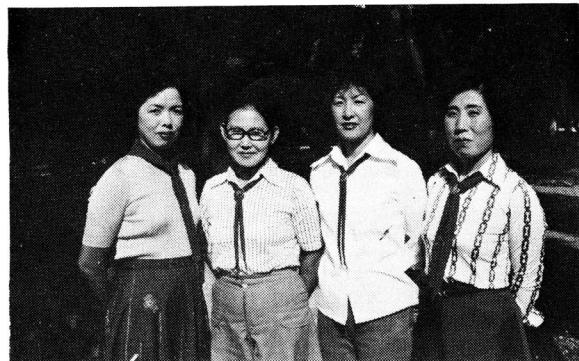
横田デンマザーは、ぼくたちが困っている時に、教えたり、物がこわれてしまった時に直してくれたりして、僕達を助けてくれます。隊集会には、そのけっさくを発表し、その後、悪か

ったこと、よかった事を話し合います。それからDMがおこつたり、ひがんだりした時は、ぼくたちで協力して、元気を出してもらいたいと思います。DMは小さな子がいるのに、よく頑張って、やってくれるので、ぼく達も負けないように頑張ろうと思います。

浜松第6団のデンマザー

1組デンマザー 高木りゑ

1組は6人のカブ隊員でくまれています。私は子供達のデンマザーとして責任をはたせるかどうか心配していましたけれど、なんとか隊長始め副長その他皆さんのおかげで楽しく出来ました。まだまだこれからもいろいろの事を吸収して、隊員の人間形成にプラスになるよう頑張っていきたいと思っております。よろしくお願い致します。



左より 高木、小池、長尾、平野

2組デンマザー 小池タツエ

6団カブ隊は山田隊長、近藤・片橋副長の下に4組が編成されています。私達デンマザーは一年を三期に分けて交替で受持ちます。組の子供達はとても素直で天真爛漫です。子供達と一緒に遊ぶのが大好きで、私は前もって当日の予定を立て展示作品を準備しておきます。自分に正直で一生懸命な時は子供達も一体となって行動してくれるのが何よりも嬉しいです。

3組デンマザー 長尾みち

私達6団ではデンマザーは4ヶ月交代で4月から7月は木下さん、8月から私がやることになりました。やる前は心配で、私も出来るかしらと悩みましたが、子供達の明るい笑顔の中でアッという間に2ヶ月が過ぎてしまいました。次回は星の観察、夜空をゆっくり見ることもないままの毎日なので、今から子供達のように楽しみにしています。

4組デンマザー 平野松代

私は末っ子をC S隊に入れて頂いてから三年目になる母親です。自宅の近くに6団の隊ルームがあるので、B S隊の人達の様子を見聞するにつけて「B S隊のお兄さんのような子供に育てたいな」という願いを込めて入団させて頂きました。私の組は7名で、いたづらっ子、やんちゃ坊主、無口だけれど人の話にじっと耳を片向ける子供、七人七色の個性を持った子供達だ

けれど、みんな素直です。子供達に囲まれてカブ活動をしていると年令を忘れて童心にかえり、微力だけれども奉仕活動に努力している私は。どうぞよろしく。

浜松第14団DM紹介

成子の丘にそびえるカトリック教会、その森の中の隊舎にて元気なスカウト達の声と共に頑張るDMの姿。日曜日の午前中に見られる14団の組集会。我が隊のDMは入隊時の母親にDM講習会に参加してもらい、1年後に正式にDMをおねがいして1年間組を1人で受持ってもらいます。したがって現在のDMは、しか（4年生）の母親です。



左より 奥沢、寺田、野元、佐々木



第14団1組 今村敏子
とても活発に段取りよくリードして、スカウトも、もたもたしていられない。

第14団2組 野元みさ子
おとなしいお母さんですが、芯は強く隊集会での発表はたいしたもの。

第14団3組 寺田京子

スカウト活動に熱心で、元気なスカウトを見つめながら目を細めて満足そう。

第14団4組 奥澤静江

すらりと背が高いお母さん。元気でいたずらスカウトを、きびしく、時にはやさしく、熱心に指導してくれます。

第14団5組 佐々木和子

いつも明るく、スカウト活動の為に幼ない子供を主人に預け?、スカウトと共に、はりきってくれます。

以上、各組のDMのほんの一部分の紹介で他にいろいろと感心させられる面が多く、将来良き社会人となる為の一時期の手助けにと、それぞれの持ち前を生かして頑張っています。

浜松第15団デンマザー

伊藤くに子さん 趣味はバレーボール。先日の運動会で、団対抗リレーに出て、目覚ましい活躍は、まだ記憶に新しいです。

石川いち子さん 趣味は旅行、手芸。自営業のお忙しい中、隊の大きな行事には必ず出席してくれ、スカウト運動に情熱を燃やして活躍されています。

岡部都さん 趣味はテレビの時代劇を見る事。カブに入り

一年半。ようやくカブに馴れた様です。とても気さくな人です。

佐藤久子さん 趣味は仕事、旅行、洋裁。一人息子が入隊しているせいか、いつも子供と一緒に活躍されております。一寸小柄ですが、人一倍熱心にやってくれます。

村松喜美枝さん 趣味はショッピング、仕事、ドライブ、パチンコと多種多様。木工業を営んでいるせいか『いつも元気』とカブのモットーを地で行く様な人柄。その為か、子供達からもとても好かれております。毎日、大変お忙しい人ですが、御主人共々スカウト活動に理解をしてもらっております。

杉山桂子さん 趣味は昼寝、ピアノ、花作り。お嬢さんはガールスカウトに入っているとの事。ボーイとガールでとてもお忙しいとの事。組の子供達をみな、自分の子供の様に見守ってくれるのであります。

浜松第21団デンマザー

発團以来デンマザーは、主にクマスカウトのお母さんに、一年を通してお願いしております。熱心な人が多く、現在の3人の副長もデンマザー出身です。又、ボーイへ上進したスカウトのお母さん達も「スミレ会」なる会をつくり、団に奉仕しています。

自己紹介

影山容子 DM

学校や、家庭を離れ、もう一つの社会に子供達は隊長、デンチーフに導びかれながら、遊び、学んでいます。「うさぎ」「しか」「くま」も皆んな家の息子です、ウサギ シカ幸をつくる仲間です。CM 気さくな性格、誰にでも好かれる人、もち論お父さんが一番。

富田容子 DM

子供が入隊して3年目、今迄はDMに頼って來たので、いざ自分の番となり、とまどいを感じています。仕事を持つており少し大変だけれど、皆さんの協力で何とか……スカウトに負けない様頑張っています。今年は車の免許を取りハッスルしています。

CM 育ちの良さか、おっとりした色白のカワユイお母さん。

山内律子 DM

私は、少し大ざっぱな所が有るので、組の子供達も多少不満だろうと思う。でも、根はとってもやさしいんですよ？子供達に助けて貰ってこれからも頑張ります。

CM スポーツならまかしてノカモシカの様な脚を持ったお母

さん。

大村紀子 DM



左より 広富、山内、影山、富田、鈴木

勉強不足で何も出来ませんが、皆さんにいろいろ教えていただき、どうにかやっております。

CM 各方面に活躍、忙しい人、ガッツなお母さん。

広富恵子 DM

入隊して3年、本年度DMになり、皆さんの御協力に依り頑張っております。暇を見つけて春はさつき、秋は菊、と花づくりを楽しんでいます。

CM 気はやさしくて何んとか? 身体の大きないいお母さん花の好きな人は心が美しい、「いやほんと」

鈴木紀子 DM

入隊して3年目、DMを引き受けて、リーダーの方達の御苦労を身近かに見、頭の下る思いです。組の皆さんに支えられ、先輩のDMさんを見習い頑張っております。

CM テキパキと行動するお母さん、「ウーム出来る」

「ジャンボリーに参加して」

静岡第1隊副長補(浜松22団) 瀧川卓幸

朝霧は隊長、千歳は副長、今回御殿場は副長補と云う役務で参加したせいか大変気分的に気楽な感じで生活が楽しめた。キャンピングでいつも感じる事だが、参加しているボーイ達が第1日より2日目、2日目より3日目と云うように、日1日とたくましく力強く成長していく姿を目前に見て、又、来てよかったですのだなあーと自分なりに思います。

朝の起床、水くみ、マキ割りに初まり炊飯、洗濯、等々……。火を一つ起すにしても、家のガスレンジで、ハイ、バチンと云ってすぐに火が付くのではなく、並々ならぬ苦労をして、又、御飯をたく間いだも、煙りにまかれながら顔をススでよごし、真黒になり涙を流しながら火をたく。これは特にマキが温めている時などは、大変苦労をするものです。でもこうして出来た御飯の大変うまい事は格別です。

これら、ひとつ、ひとつが文化生活を離れたキャンプ生活では、苦しみの毎日であり、又、それをなし得た時の充足感は大いなる喜びをうるものでした。

私は、二、三泊のキャンプでは余り問題にならない事柄が、長いキャンプ生活に於て初めて知る、苦しみ、喜びは、又別のもの様に思えてならない。その中で、子供自身がだれにも甘えられず、自分自身の全身を通じ、最底最少限の生活を生きてゆくことを覚える。恵まれた文化生活の日常では、とうてい考えられない。これによって今迄の文化生活のありがたみ、又良い面、悪い面も実直な姿でとらえられる事が出来る人間に成長するに違いない。とかく、一つの定まった生活、恵みの中にひとりきっていると自分の置かれている立場とか色々の事が当然であるかの様に思い勝ちになり、不平、不満が先に立ってしまう事が多々ある。これらの事が、何らかの意味で子供達だけでなくそこに参加した人々すべてに於いて感じられた事と思う。

キャンプはある意味に於いて自己の内省の場であり、心の洗濯であり、忍耐を教え、又喜びを教えてくれるものである様に思う。今までにも増して今回のキャンプは、隊長始めとして上級班長に及ぶ人々が各人のタレントに従い、例えば一人の副長は、配給担当者として全期間中、一日も欠かさず朝五時半に



起床して、本部まで配給品を取りに行ってくれた。又、同様に他の副長は、パイオニア賞について、寝食を忘れる程に子供各人のプログラムの作成に精を出し、全員がパイオニア賞を受ける事が出来た。この様に各人の責任分担を最後まで変わりなく確実にやり得た。これは毎日の夜のミーティングのたまものでもあった事だろうと思うが……!! こんなによくまとまつたキャンピング生活をおくれた事は、各リーダーの日頃の訓練の成果であろうことに、あらためて感激と同時に書面をかりて、感謝の意を表したいと思う。

ボーイスカウトについて

浜松第22団ボーイ隊 大森元秀

ぼくが、ボーイスカウトにはいったのは3年前で、はいった時は「ボーイスカウトってなにをやるんだろう。」とか「先輩にいじめられないか。」とか思ったものだった。だが、先輩たちも親切で、1年ぐらいたつとやることもわかつてきて、はいってよかったと思う。

今まで、心にのこっているのは一番最初のキャンプです。その中でも心にのこったのは、おかげをつくっている時、おみおつけをつくっていた時、みそが下にこぞんでいて副長がそれをしらずに、みそをいれてしまって、たべれませんでした。

今は部活があつてあまり出られませんが、つづけていきたいと思う。

* * * * スカウトコーナー * * * *

7th 日本ジャンボリー

S S 奉仕隊 浜松第21団 S S 隊 石井 秀哲

僕は、この7th日本ジャンボリーに、S S 静岡奉仕隊として参加しました。

派遣隊と違って奉仕隊は、2日早い8月1日にゲートをくぐりました。2日の午後から天候が悪くなり、派遣隊がやって来る3日も雨が降り続き、僕達もS S 奉仕隊として、派遣隊の荷物をこの雨の中で運び、それは大変なものでした。4日に入り、まだこのにくたらしい雨は止まず降り続き、全くもって疲れました。

僕達は、主にこの大会に入ってからはG H Qの奉仕として活躍しました。毎日当番隊が出て奉仕にあたり、例えば資材を運んだり、大会会長のテントの前でズーッと坐って居たり、皇太子の護衛をしたりしました。中でも一番きつかったのは皇太子の護衛で、一日中、立ちっぱなしで、それに緊張の連続、もう本当に口では云い表わせない程きつかった一日でした。

話は變りますが、何と云っても一番面白かったのは、キャンプファイヤーで、みんなで自分の学校の校歌などを歌ったり、メリ回ったりしました。それに、その時は、夏の甲子園の大会もあったので、各高校の応援歌なども歌いあったりしました。

最後に全体を通しての感想ですが、やはり一番最初に思い出すと云えば、我がS S 静岡奉仕隊の山田隊長で、本当に僕達のリーダーとして、本当になんか僕達のお父さんの様な感じで、本当に良い立派なリーダーでした。

僕は、この7th日本ジャンボリーに参加出来て、本当にうれしく思って居ります。



キャンプ

浜松第22団ボーイ隊 大石道生

ぼくは、夏休みの8月5日の日キャンプへ行った。このキャンプは2泊3日というキャンプだ。このキャンプで最高に心に残った事は、ジャンボリーの所へいった事だ。とてもなく広いのだ。テントの中は、みるだけそんというふうにきたなかつた。でも、ジャンボリーの所にはおかしやがあった。いいなあと思った。

そして、もとの場所へぼく達ボーイスカウトは、テントのある、かまどというところにいた。そこでは、じどうはんぱいしかなかったので、つまらなかつたけど、いくせいかいの人達が、おいしいりょうりをつくってくれたのでよかったです。

最後に、14団と共同でやつた、キャンプファイヤーもたのしかつた。

日本ジャンボリーにいて

浜松第22団ボーイ隊 大石信生

ぼくは、日本ジャンボリーは楽しかった。とくにパイオニア賞が楽しかった。

オリエンテーリングや自然研究がよかったです。オリエンテーリングはいろんな人にきてやつたし、自然研究は富士山のほうえい山のへんまでいったからです。

クラブの人ともすこしはなしをしたからおもしろかったです。たくあんといついておもしろかったです。

さいしょの日に雨がふったのでいやだった。そこらじゅうがくさくなったりしたからだ。

最後の日は、やつと家にかえると思ってわくわくしていた日本ジャンボリーにいてよかったです。



ボーイスカウトについて

浜松第22団ボーイ隊 小田信吾

ぼくは、いまの中学生1年生の人たちよりあとにはいた。ぼくがボーイスカウトにはいろうと思ったのは、大森君が「ボーイスカウトはとってもおもしろいよ」といったので、ぼくは、はいるきになった。

今までいろいろなことをやつたけど、いちばんここにのこつたのは、車山のスキーとハイキングである。

ぼくはボーイスカウトにはいってから2年目だけど、これからもずっとつづけていきたいと思いました。でも、このごろはぶかつがあつてあまり出席できないので、なるべく出席したいと思いました。

ジャンボリーの思い出

浜松第14団カブ隊 寺田 貴也

8月5日より、富士山のふもとの御殿場において、4年に1度の日本ジャンボリーが行われました。ぼくたち浜松14団カブ隊も見学に行きました。

会場はものすごく広く、大ぜいの人たちでいっぱいでした。

ジャンボリー会場には、宿しゃから歩いて行きました。10キロも歩いたので、たいへんつかれてしまった。お昼になって、木かげでおにぎりを食べたときは、とってもおいしく、けしきもきれいで、日本のはたやアメリカ、インド、その他ほかの国のはたがいっぱいあり、とてもきれいで。

宿しゃでは、調布4団となかよくゲームをやったりしました。

調布4団の活動はすばらしく、せい列も行動もぼくたちとくらべものにならなかった。

これからよその隊にまけないように、いろいろ考えて活動したいと思います。

日本ジャンボリー見学

浜松第14団カブ隊 小出 浩司

ぼくたち14団カブ隊は、御殿場の舍营地に3日間とまることになった。8月5日から7日までです。2日の日曜日にジャンボリー会場のミサにあずかるため、朝早くでかけた。初めは皆んな元気よく歩るていたが、なかなか遠くて、やつとの思いで会場についた。

広い会場の中は、色々なテントとボーイスカウト達で、一ぱいでした。初めて見る集まりにむねがどきどきしながら、中に入つて行きました。色々な所を見ながら浜松のテントの所に行き、少し休み、そこで外国のスカウトの所へ行きワッペンをもらいましたそれから松林の中に行き、おべんとうを食べてからアリーナに見学に行きました。スカウトで一ぱいでよく見えなかった。すぐ帰るといったのでざんねんでした。帰るとちゅうに2人がまいごになつてしまい、出口の所で長くまっていやになりました。

だいぶつかれてしまったが帰つてから思い出すと行ってよかったです。



野営の思い出

浜松第14団ボーイ隊 松下 寛之

ぼくたちの団は、8月3日~8月7日まで御殿場市神場の旭

テニスクラブで夏期野営をした。南御殿場の駅は無人だったが着いたらすぐに雨が出迎えてくれた。

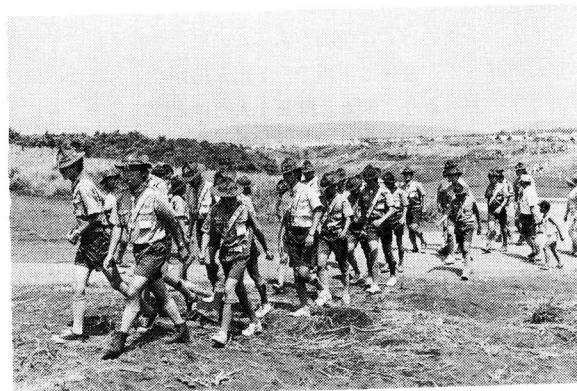
初日は、ぼく達の班が優秀班となつたが、その後日からさっぱりだった。

2日目のハイキングは有名な駒門風穴へ行ったが、行きも帰りも電車に乗れず、雨に濡れながら往復10km位を歩いた。

3日目、班員の態度から疲れが始めた事を感じた。雨にたられどうしだから無理もない。その日は「パッ」としなかつた。

4日目、ジャンボリー会場まで朝5時に起きて歩いた。10kmの道のりである。皇太子殿下にも会い、県外の友達も作り、テントサイドも見学し、いろいろ参考になった。富士演習場のUSA兵隊さんにもサインしてもらった。班員1人1人の顔は楽しき一ぱいである。これでいいと思った。

雨に濡れ、まきがしめり火がつかない。いろいろ苦労したがこれをのりこえれば楽しさに変わることを感じた。良い経験をしたと思う。



御殿場夏期野営

浜松第14団ボーイ隊タイガー班 齋藤 公誉

とてもきびしかった4泊5日のキャンプを終え、今は安楽した日々を送っている。

今もたまに思い出すつらい水はこび。初級の仕事食器洗い、さがし回るまき集め、まだいろいろ楽しい事や根性がいる事もあったが、ひとつやしかった事があった。それは、いやな事をすごく言う人がいたので、あまりやる気にはならなかつた。でもがまんしてやつたからあとからすがすがしい気持ちになつた。いくら上でもちょっとといいすぎだ。

いがいとらくだつのがまき拾い。その辺にいっぱい落ちていたから、ひよいひよい取れた。でも、夜のまきひろいはいやだった。何といっても、ぼくは夜がきらい（こわい）特に森林だったのでなおさらこわかった。

雨がふつたのでまきがぬれて火がつかなかつた。ブラックビーチは、1日目の優秀班になつたが、問題はこれではない。ぼくたちは嵐の時行つたので、設営がたいへんだった。食堂フライのときもテントのときもすごく苦労した。しかし、その後よその土地ということでまた移動した。水運びはとてもつらい力仕事で、いつも先輩の堀尾さんといっしょにやつていた。

あっそうそう、忘れちゃいけないのが帰りの時だ。かぜをひいてしまつて、みんなより先にお父さんのキャラバンで帰つた

あのとき、みんなにたいへんな心配をかけたので、とてもすまないと思っている。ぼくはいい経験をした。御殿場のキャンプ場、ぼくの思い出の場所になった。

西気賀のキャンプ

浜松第1団カブ隊3組 毛塚進康

カブのキャンプで西気賀に行った。とくに心に残ったのは、きもだめしです。

夜8時ごろ、山の上にあるお宮にきもだめしに行つた。ほかの組が行っている間は、みんなで怪談話をやっていた。途中で隊長が草むらの中で光っているものがあつても、ほたるだけではなく、まむしもいるので気をつけるようにいわれたので、みんなは「へー」と、びっくりしてさけんだ。とうとう3組の番になったのでふるえた。ぼくはみんなに「かけごえをかけて行こう」といって「わっしょい、わっしょい」とかたをくんていった。50mぐらい行くと、お宮があった。

階段を登ろうとすると、誰かが、ばくちくをなげたのでびっくりした。お宮のうらに宝物があつたので、それをもつていろいろにげ帰つた。最後は1組で、1組が出かけるとほかの組はみんな下の方へおりて来た。隊長1人だけがのこつて、木のぬけにかくれていて、1組をおどかした。この夜もたいへんだったで、つかれた。寝る時に、今日のきもだめしの時のことを思い出し、みんなで話をしていたら、とてもおもしろくてこまつた。今日もたのしい1日でした。

川宇連の山

浜松第1団カブ隊1組 北村武志

川宇連の山は美しい、川の水は飲料水にしていると聞いた。また、こんどのカブのキャンプは、テントの中にとまつたのですぐそばにきれいな川が流れていた。その川で遊んだ。冷たかった。ダムも作った。実雄君といっしょに滝のところに行つたそこも思ったより冷たくはなかつた。ぼくは、川には色々なおもいでがあつたのしい。

夜は、自分たちであつめたまきで、カブの畑からとつてきたいもをやいた。少し黒こげになつたけど、自分でやいたいもはとてもおいしかつた。そして、テントの中ですごしたことが一番たのしかつた。でもボーイの人たちが、どしゃぶりの雨の中でテントをはつてくれ、びしょぬれになつてしまつたので、悪いような気がしたが、この間までカブにいた先輩が、ボーイになるとたのもしいと思いました。

テントの中に入るとアブがたくさんいた。みんなアブをおとそうとしてポーチをなげては落してはいた。ぼくもやつたあと思うと、いけないことをしたんだなあ思いました。

ボーイスカウトでの生活

浜松第1団ボーイ隊 内田幸生

ぼくはボーイスカウトになって本当に良かったと思った事が一つあります。

それは、ボーイスカウトになりたての頃、老人に席をゆづる事や道に落ちていて交通の邪魔になる木や空カンや空ビンなど

を拾う事がはずかしくて出来なかつた。しかし、ボーイスカウトで奉仕活動をしている内に、私服の時にも老人などに席をゆづる事や道に落ちていて交通の邪魔になる木や空カン、空ビンなどを拾う事が出来るようになつた。ボーイスカウトでの生活の中で、大事なこの奉仕活動をするという事をならつたと思う。

またこれからもそのように生活をし、人々に奉仕活動をしていきたいと思います。



夏のキャンプに思う

浜松第1団ボーイ隊 河原崎真吾

1団の夏のキャンプはカブ隊と合同で渋川で行なわれた。夏のキャンプは毎年場所が変るので楽しみである。

8月18日から20日の2泊3日であったが、渋川の川宇連野営場は去年班訓のとき来たのによく知つてゐる。班訓のときはまだ寒く、訓練がきびしかつたのでよく覚えている。

こんどのキャンプは雨がはげしく降つて設営に苦労した。今まで雨に降られたことがないのでほんとにまいってしまった。しかし、2日目の無線ハイクは楽しかつた。1団では今年無線機を3台買ったので、これと僕のと4台を各班に持たせ、隊長が本部からコースと目的、課題を指令するので、各班の無線資格者は自分の周波数でコールが呼び出されると、隊長の指示に従つて行動する。無線ハイクは休けいなしで約10キロくらい歩いたのでくたくたであったが、本部で昼食が準備されていたので疲れがふつとんできつた。

渋川のキャンプ

浜松第21団ボーイ隊コブラ班 福田芳純

8月のおわり、ぼくたちは渋川野営場でキャンプをした。今回は、いままでとは少しちがつたキャンプだった。今年は、班長だから班員を使えると思って楽しみにしていたのに、ぼくらの班員はにぶい人ばかり。1番人数が多かつたというのに……。これからは、みみっちい考えはしないようにということを、つくづく考えされた。

第1日目は、設営だった。これは例年とかわりない。

第2日目、手旗をやつた。手旗はいちおうやってあるので、ぼくはいいけど班員がぜんぜんわからなくて「なんでこうだるいんだろう」と、何ども思った。また、ぼくたちの班はビリでしかも途中で言葉でなくなつてしまつたのがなきれない。ぼくは、班長としてみじめだった。

第3回目に結素をやつたら、またビリで、つくづくいやになつた。

これからぼくは、もっとしっかり班員に教えていきたい。班員もそのつもりでしっかりしてほしい。

このキャンプは、結局ぼくらの班のビリキャンプになってしまった。

ジャンボリー見学

浜松第21団カブ隊 浅井英晃

テレビでしか知らなかつた日本ジャンボリーを見学できるというので楽しみに待つた。どんなお祭りだろと色々頭にうかべてみた。いよいよ6日だ。東名に入つて、ごてん場におりたとたんジャンボリーに行く車すごいラッシュだ。あらためてジャンボリー大会の大きさにおどろいた。のろのろ運転の末、歩いて会場に向かつた。色々な地方のなまが歩いてる。途中、こう太子みちこさまをチラッと見た。

いよいよ会場。広い広い野原だった。21団はどこだ。やっぱり自分たちの団の場所がきになつた。うすよごれたボーイの横に、21団のはたがあつた。回りはテントがいっぱいだ。キャンプの親方だなと思った。

お祭り広場を行つたが場所が悪いのと人が多く、何をしているのか分らない。テレビでやるお国じまんといつしょだな。やっぱり見学するより参加しないと本当の意味が分らない。まいごにならないように、ついていくだけで、せいいいっぱいのジャンボリーだった。

中央小地区運動会

浜松第21団カブ隊 鈴木秀明

9月17日は、中央小地区の運動会だ。いろいろな競技があつたが、おもしろかったのは、ケツアツリレーと、しょう害物競走です。ケツアツリレーのおもしろさは、風船を走りながらふくらませて、おしりで割る競技で、しょう害物競走は走つて行き、あみをくぐり、タイヤをくぐり、タイヤは太つてゐる人だと通りぬけられませんでした。

輪回しをしました。21団の人たちは、みんなへたでした。こんどは、ぼくのでるつなひきです。ボーイは、一位でしたがカブは不戦勝で、二回戦で14団に負けてしまいました。

それで、運動会での感想は、いろいろな団の人たちが、力を出しきつて、がんばつてゐた所がとてもいいと思っています。もう一つは、各団、大せつせんで、最終のリレーで6団が一位で、21団が二位になり、14団と同点になつた時は、どっちの勝かなど思ひました。

放送で「浜松中央小地区運動会のそごうゆう勝は21団と14団が、同点になつたので、きょうぎの結果、21団のゆう勝と言うことに決まりました」と言いおえたとたんに、ぼくは「やつた」と思ひました。21団のみんなも、うれしそうな顔でした。

来年も、ゆう勝きをもつて帰りたいです。

三人だけのキャンプ

浜松第21団ボーイ隊ワニ班 鈴木久裕

今年の夏のキャンプは班員がたつた三人だけのキャンプだつ

た。しかし、食事はうまく作れたし、せつ當なども早くしつかりできた。

初めは三人だけでうまくいくのか心配だったけど、いろいろやってみて思ったよりうまくいったのでよかった。

手旗やけっさくもみんなしっかりやってくれた。賞品のジュースもがっぽり手に入つて、みんな、うはうはよろこんだ。

しかし、ただ一つうまくいかなかつたことがある。それはテントのはり方だ。もう少しでたおれそうにたつたけど、三日間なんとか立つていた。三人ともとてもいそがしかつたので、直すひまがなかつたのだ。

でも、三人のキャンプにしてはうまくいったし、人数が少なくてやればできることがわかつた。今回のキャンプで班長としてやっていけそうな自信がついた。

カブスカウトに入って

浜松第6団カブ隊3組 神谷信寛

ぼくのいちばんのしかつたのは、運動会のときでした。その運動会でやつたのは、「つなひき」「ふうせん割」です。場所は、じえいたいなのでバスで行きました。

カブスカウトに入ったとき、うれしくてわくわくしました。新しいせいふくを買ってもらって、たいルームに行きました。そこには、お兄さんたちがまつっていました。隊長さんがいろいろおしえてくれました。「カブスカウトになるには、あまり休まず、何年もつづける事です」とおしえてくれました。ぼくは、ずっとやめないでがんばりたいと思います。

日本ジャンボリー見学

浜松第6団カブ隊1組 高木一弘

ぼくは初めて、日本ジャンボリー見学にさんかした。りょかんへとまつて夜は花火を見た。とってもきれいな花火だつた。夜ねる時、みんながやがやしゃべつていて、あまりよくねむれなかつた。ボーイの人が注意しても、みんなしゃべつていていた。

朝、みんな外へ出てラジオ体をやつた。ごはんを食べて、バスに乗り、ジャンボリー会場へいった。外は暑かつたので、れいぼうがきいていて、いい気持だつた。途中、富士山がふんかした時できたほらあなへ行つたら、とてもさむくてたまらなかつた。でも、ほらあなから出たら急に暑くなつてきた。

またバスに乗つた。バスに乗つていたら、途中、じゅうたいでバスをおりて歩いていた。みんな暑くてたまらなかつた。「やつと着いたぞ」という気持ちでジャンボリー会場に入つた。テントがすごくあつた。人が何人も何人もいた。ジャンボリー会場は思ったより広かつた。

こんどのジャンボリー大会には、ぜつたいさんかしたい。

浜名湖一周サイクリング

浜松第6団ボーイ隊初級 山口一則

ぼくは、今初級だ。なのでこの浜名湖一周のサイクリングで二回目のキャンプになつた。1回目は、天竜市の佐久の野営場にテントをはつて、キャンプした。でもこんどは、場所がかわるのでぼくはこのサイクリングが気にいつた。

1日目は、住吉青少年の家にテントをはってとまった。2日目は、浜名湖を一周して、きょううてい場の近くの、うき見ていたにとまつた。浜名湖一周するとき、登り坂が十本ぐらいあったのでとてもつかれた。でも登ったあとには、下り坂があるので登ったあとは、とてもほっとするような気がした。でも、また登り坂があると、気がとおくなるような思いで登っていく。昼食は瀬戸のてんもん台の所で食べた。そして、手旗をやった。ぼくはあまりできなかった。そして、今日とまる、うき見ていたに着いた。そうしたらすぐ食事のしたくをした。おかげは、カレーだった。とてもしゃびしゃびだったので味がうすく、まずかった。

そして次の日の朝がきた。朝はおきるのに、ねぼうしてしまった。きのうのつかれが残っていたのか、ぼけている。そして、かにあみを引きにいった。ぼくが引いたあみには、とても大きいのが入っていた。ぼくは、うれしかった。そして朝食のしたくに入った。ごはんをたくとき、火がなかなかつかなかったので、朝食のしたくが少しおくれてしまった。

それから、海へ泳ぎにいった。貝がいっぱいあった。ぼくは、無ちゅうで取った。でも、水は秋なので、とてもつめなくて長い時間は入っていられなくて、百個ぐらいしか取れなかつたので、とてもざんねんだった。そして帰る。かんざん寺をとおつて、浜松へちょくしん。楽しいキャンプは終った。

日本ジャンボリーに行った事

浜松第15団ボーイ隊トナカイ班 豊田 裕

ぼく達15団は8月5日、6日とジャンボリーに見学を行った。ぼくにとっては、はじめてのジャンボリー見学であった。

バスに乗ってジャンボリー会場を行った。あるわあるわテントの群落である。赤、青、黒、緑、色とりどりである。

バスからおりると、まず浜松小地区を捜した。いろいろなテントがあるので見つけるのに大変苦労した。しかし松林をぬけ出るとあった。浜松小地区のテントのかたまりの中を見学させてもらった。その後玉木隊長に設営の苦労話を聞いた。その話によると、「設営の時は雨がふっていて、とても苦労した。」とのことであった。その後ジャンボリー会場を見学した。沖縄から北海道までその土地独特のかぎりがあった。

この見学で一番感じた物、それは、その土地なりの設営のしかたがあるんだと感じた。

日本ジャンボリーを見学して

浜松第15団カブ隊 土屋 泰夫

4年に1回やる日本ジャンボリーで今年は静岡県のごてん場で開かれた。もしも、もっと遠くの方で開かれていたら、いけなかつたかもしれない。静岡県で開かれたので、見学できたのが幸運であった。野いちごを食べたり、キャンプ場で写真をとってもらったり、グアム島から参加したボーイスカウトの隊長に会えてワッペンをもらったり、あく手をしました。日本ジャンボリーでも外国人の人々が参加していたのでびっくりしました。ごてん場の会場のすみずみまで歩いたので、会場はとても広いなあと思いました。そしてもっと予想しなかつたことがあります。

おもちゃの会場で皇太子でんかが、おみえになると聞いたので急いで前に出て待ちました。長い間待って、やっと見えてき

ました。だんだんぼくの所に近くなり、目の前に来た時、勇気を出して手を出してみると、美智子ひでんかがにっこりわらってやさしくあく手してくれました。その次、ひろの宮が続いてあく手してくれました。

この事は、ぼくにとって、一生わすれられない思い出になるでしょう。そして、日本ジャンボリーの見学に来てほんとうによかったですなあと思いました。

カブスカウトに入って

浜松第15団カブ隊4組 白柳 厚

ぼくは今年の五月に、カブスカウトに入った。今まで、一番楽しかった事は、8月の11日から13日にかけて行われた舍営のことだ。

場所は、気田川の近くの小川公民館という所だ。山に囲まれていて大変すくして気持ちがいい場所だった。

気田川で泳いだり、スイカわりをした。水の流れがとても速くて、流されそうになった。

イヤをうかべて遊んだ。とても楽しかった。写生も、宝さがしハイキングもした。

けれども、一番心に残ったのは、8月12日の夜のキャンプファイヤーのことだ。營火をかこんでげきや、歌や、仮そう行列をやつたりしてとても楽しかった。

途中から、カブスカウトに入ったぼくは、隊長や、組の人いろいろなことを教わった。来年はボーイスカウトになる。ボーイスカウトは、とてもきびしいと聞いているので、今のうちからがんばろう。

地区のうごき

53年7月3日 第7回日本ジャンボリー編成隊隊長会議
(法林寺)

16日 24団S S隊隊審査(24団隊ルーム)

19日 中央小地区リーダー会(法林寺)

22日 地区委員会(法林寺)

22~23日 S Sヨット講習会(寸座マリーナ)

28日 24団S S隊発隊式(24団隊ルーム)

8月4~8日 第7回日本ジャンボリー(御殿場市滝ヶ原)

16日 中央小地区リーダー会(法林寺)

17日 第7回日本ジャンボリー反省会(法林寺)

26~27日 S Sヨット講習会(寸座マリーナ)

9月2日 地区名譽会議(法林寺)

10日 浜松地区大会(児童会館)

17日 中央小地区運動会(自衛隊南基地)

18日 地区コミ会議(法林寺)

20日 中央小地区リーダー会(法林寺)

23日 第7回日本ジャンボリー県連反省会

(静鉄健保会館)

27日 J、O、T、A打合せ(青少年の家)

発行所

第73号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
浜松市利町70-4 児童会館内
編集発行責任者 山中将司
印刷所 (株)朝日堂印刷所

昭和53年10月25日発行